

バリ文字

塩原 朝子

概説

バリ文字は、他の東南アジアの諸文字と同様、パッラバ文字の流れを組む文字です。直接の起源は、古ジャワ語（カウィ）を記述するのに用いられていたカウィ文字です。そのため、現代でもバリ文字は、字形がやや異なることを除けば、ジャワ文字と同じ体系を成しています。

東南アジア島嶼部の文字の多く（ブギス文字、バタク文字など）は、見かけ上はインド系の文字であるとはわからなくらい形が単純化しているのですが、バリ文字は比較的インド系文字特有の形を残していると言えるでしょう。

形としくみ

バリ語は比較的音韻体系が単純な言語です。それを反映して文字の数も比較的少なく、「基本字」は以下の18字です。これらの文字は、インド系文字の多くとは異なる以下のような配列で並べられるのが普通です。

ha	na	ca	ra	ka
𑄀	𑄁	𑄂	𑄃	𑄄
da	ta	sa	wa	la
𑄅	𑄆	𑄇	𑄈	𑄉
ma	ga	ba	nga	pa
𑄊	𑄋	𑄌	𑄍	𑄎
ja	ya	nya		
𑄏	𑄐	𑄑		

これらの基本字は子音+aを表します。これらの基本字と、母音記号、子音を表す補助記号などの組み合わせでa以外の母音や子音連続や音節末子音が表されます。

使用状況

バリ文字は、伝統的には、貝葉にさまざまな文章 歴史、儀礼のきまりごと、農業や薬学に関する知識、物語などを書くのに用いられてきました。（貝葉は、バリでは材料となる植物の名（ロントル椰子）を取って「ロントル」と呼ばれています。）

現在、バリ語は圧倒的多数のバリ人の第一言語として、家庭や地域社会で用いられています。しかし、その使用はもっぱら話し言葉としてのもので、書き言葉としてはほとんど用いられていません。それゆえ、バリ文字が日常生活の中で用いられることもほとんどありません。

その背景には、インドネシア語の存在があります。インドネシアでは、憲法でインドネシア語が国語として定められており、現在、学校教育や公式文書などではインドネシア語が使われています。その影響を受け、バリでも、日常生活の中の「書きことば」としてはローマ字表記のインドネシア語が用いられているのです。

ただし、現在でも、ある種の宗教的文書（暦など）はバリ語で、バリ文字を用いて表記されています。また、近年（1990年代以降）になって、「中央集権」から「地方分権」への政治的流れが生じたことから「地域文化」復興の動きがみられ、それを受けて、公的教育でのバリ語およびバリ文字教育が始まりました。そのため、現在、若いバリ人の多くはバリ文字の知識を身につけています。また、街頭や建物の表示にバリ文字がみられるようになってきています。